

クラシック・ライター 片桐卓也さん



「デビュー30周年記念 吉野直子 ソロ・リサイタル」

ハープ奏者の吉野直子さんは、今年、デビュー30周年を迎えました。若い頃から活躍されているハープ奏者で、今や世界的な存在といっても良いでしょう。

彼女は、若い頃からバッハのピアノ曲やモーツァルトのピアノ曲をハープで演奏する試みを行ってきました。

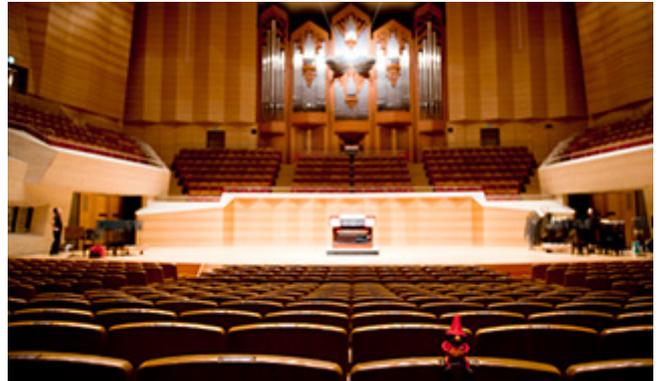
今回のリサイタルでも、モーツァルトのピアノソナタをハープで演奏します。

これはかなり珍しい演奏なので、ぜひ聞いてほしい曲目の一つです。

もちろんそれ以外にも、ハープのために書かれた傑作を何曲も用意しています。非常に興味深いプログラムですので、ぜひ皆さんお聴きになってください。

「吉野直子 ソロ・リサイタル」は、アークヒルズの「サントリーホール ブルーローズ」にて、2月6日に上演されます。

(2016.02.01)



サントリーホール

開催概要

- 期間：2016年2月6日（土）14:00開演
- 場所：サントリーホール ブルーローズ（アークヒルズ）
- 入場料：指定 ¥5,000、学生 ¥3,000
- ▶ デビュー30周年記念 吉野直子 ソロ・リサイタル 2016～ハープの多彩な魅力（ルニエの作品を中心に）～

吉野直子：ハープ奏者

1985年、第9回イスラエル国際ハープ・コンクールにて、その大会の参加者中最年少の17歳で優勝。1987年、初のCD「アラバスク」を発売。1994年、ヴァチカンのシスティーナ礼拝堂での修復記念コンサートに参加。2007年には毎年10万人が訪れ、世界トップのオーケストラが参加するルツェルン音楽祭で演奏する等、国際的に活躍する演奏家。

1985年アリオン賞、1987年村松賞、1988年芸術祭賞、1989年モービル音楽賞奨励賞、1991年文化庁芸術選奨文部大臣新人賞等を受賞。



フリーの編集者を経て、1990年からクラシック音楽中心のライターとして活動を始め。現在はクラシック音楽専門誌に定期的にインタビュー、批評などを執筆。その他、クラシック音楽の講座、コンサートのプレトークを担当することもある。ミュンヘン国際音楽コンクールなど、世界的なコンクールの現地取材も経験。最も関心のあるジャンルは17～18世紀のオペラで、その上演を観るために、海外へ出かけている。